

第1回 二宮町総合計画審議会 会議要旨

日 時 令和2年2月7日（金）午前9時30分～午前12時00分

場 所 二宮町役場 2階 第1会議室

出席者 委員7名

真鍋 明裕会長、山内 みどり副会長、丸山 尚子委員、脇 一男委員、戸丸 隆司委員、
手塚 明美委員、遠藤 安芸子委員

町 志賀 政策担当部長

事務局 企画政策課3名

欠席者 委員4名

古澤 有三委員、野谷 和雄委員、荒木 泰弘委員、小野 智美委員

傍聴者 なし

配布資料

次第

資料1 総合戦略の概要と二宮町人口ビジョンについて

資料2 総合戦略の進捗及び評価について

資料3 第2期総合戦略 策定方針

資料4 第2期二宮町総合戦略素案

参考資料1 二宮町総合計画審議会委員名簿

参考資料2 二宮町附属機関が開催する会議の公開及び会議録の公表に関する要綱

参考資料3 二宮町総合計画審議会条例

会議概要

1. 開会

2. あいさつ

おはようございます。昨年度は、総合計画後期基本計画の策定において審議いただき、皆様のご協力ありがとうございました。今回は総合戦略ということで、主に人口減少に対して今後二宮町がどのような政策を行っていくのかの目標に対し、皆様の活発なご意見を意見書として取りまとめたいと思います。引き続きご協力をお願いします。

3. 諮問

第2期二宮町総合戦略（令和2年度～4年度）の策定にあたり、二宮町総合計画審議会条例第2条の規定により、第2期二宮町総合戦略素案について、貴審議会の意見を伺いたく諮問いたします。よろしくお願いたします。

町では、平成28年3月に「二宮町総合戦略」を策定し、「住んで良かった」「住み続けたい」を

実感、体感できるまちづくりに取り組んでおり、今年度は、計画最終年度の5年目に当たります。引き続き、地方創生の充実・強化に向け、切れ目のない取り組みを進めることが求められることから、現行の総合戦略の進捗や成果、課題を検証し、また国が示した第2次総合戦略を勘案したうえで、第2期二宮町総合戦略として素案をまとめました。皆様のご意見を取り入れながら、第2期総合戦略案を作成していきたいと考えております。

なお、本日諮問をお願いさせていただいた第2期総合戦略については、本年度中には答申をいただきたいと考えております。

今回の総合戦略は、これまでの取り組みを継続しつつ、より一層充実・強化を図り、地方創生の取り組みを次のステージへとつなげていく非常に重要な計画となります。将来の展望を示した二宮町人口ビジョンを踏まえ、全ての世代から選ばれる活気あるまちの実現に向け、ぜひ忌憚のないご意見を賜りたく、よろしくご意見申し上げ、あいさつとさせていただきます。

4. 議事

(1) 二宮町人口ビジョンと二宮町総合戦略について

副会長 : 最近では転入が増えているという話を聞きましたが、どうなっているのですか。

事務局 : ここ2年間で転入超過となっています。ただ自然移動の部分で人口は減っていますので、転入は二桁の規模でわずかに増えているという状況です。

委員 : 転入された方たちは、主にどのエリアに集中していますか。

事務局 : 具体的な場所は把握していません。中里や元 KDDI の周辺が宅地造成されているので、そのエリアに転入しているのではないかと考えています。

委員 : 今まで二宮町は企業誘致や経済の発展を促すような施策をしたことがあり、それほどのような効果がありましたか。

事務局 : 企業誘致に関しては、近隣にある工業団地のベッドタウンとして発展してきたため、特に施策を実施したことがありません。一方で、交通網の整備に関しては積極的に行ってきたため、住みやすくなっています。なお、町には一つ工業団地がありますが、企業誘致を目的にしたものではなく、元々ある小規模な工場等を集約し、住宅街に関わる騒音やにおいの問題を一つに集めることを目的に設置しました。

委員 : 交通の話が出ましたが、流通の拠点の整備はしたことがないのですか。

事務局 : 十分な土地もないため、整備をしたことはありません。

委員 : 町の魅力として、やはり気候温暖で住みよい町というものもありますし、また、教育の面でも魅力が出てくれば生産年齢人口を伸ばすことに繋がるのではないかと思います。町には若い世代が働ける産業がないので、若い世代の流出を止めるには、産業における施策の問題もあるかと考えています。第2期総合戦略期間が3年しかないので、新たに施策を行うのではなく、前期の施策を引き継ぐという考えを打ち出していった方がいいと思います。

副会長 : 自然減が多いのは分かりますが、転入者はどのくらい増えつつありますか。

事務局 : 転入者と転出者を比較すると、今までは転出が多かったです。現在は、転出者より転

入者が増え、年間トータルで10人程度プラスになっています。転入者数より自然減が多いため、全体の人口は減少していますが、人口の減少規模が緩やかになっています。

委員：国の総合戦略の概要で、主な施策に同じ項目があるのですが確認をお願いします。

事務局：次回までに確認します。

注：資料1、国の総合戦略（第1期）の概要における「地域産業の競争力強化」は、観光や農林水産業といった産業分野ごとの（分野別取組）と、産業分野を跨いだ業種間連携を含む（業種横断的取組）の2分野あり、それぞれの取り組みが①②に入ります。

副会長：ずっと住む方と在学中だけ住む方とでは、定住の考え方やアプローチが違ってきます。町ではどのように考えていますか。

事務局：現在の二宮町では、大学や進学で別の土地に移り、そのまま就職、結婚もする傾向にあります。そのため、子育ての時期に二宮町に帰ってきてくださる方と、元々二宮町から出ていかないという方を確保したいと考えています。

副会長：「きみのふるさとなりたい」というキャッチコピーは、二宮生まれの人が戻ってくるのだと思います。他方で、縁のない方が新たにどう入ってくるかということも含め、2本立ての戦略ということだと理解していいのでしょうか。

事務局：今の二宮町のシティプロモーションの1つ目は、今住んでいる方たちにいかに魅力を感じてもらい残っていただくか。2つ目は外から新たにどう呼び込むかという2本立てで取り組んでいます。

委員：出産、子育てしやすい町ということですが、産婦人科がないことが不安に思います。今後、若い世代に向けて重点的にやっていくとなると、産業を開拓していくような予定があるのでしょうか。

事務局：町の産業は弱く、新たに産業を興すのは難しい状況です。そのため、今ある環境の中で経済を活性化させたり、近隣の市町村の求人状況と町民のニーズを結び付けたり、創業を支援したりすることを、第1期総合戦略で位置付けました。子育て世代については、共働きをしながら安定的に子育てできる環境（保育園等）や自然の魅力等をアピールできないかと考えています。

（2） 二宮町総合戦略の進捗及び評価について

副会長：P3の二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくりの中にある文化・芸術活動に対する評価というのは、どのようなアンケート内容だったのですか。

事務局：アンケートは1,000人を無作為抽出し、町の施策に対しての取り組みについて郵送による調査をしました。文化・芸術に関しては、設問の中で「良い、まあまあ良い、中間、あまり良くない、良くない」の5段階で評価してもらいました。項目としては、具体的な説明がされているものではありません。

委員：回答を5段階にすると大多数が真ん中に評価してしまう傾向にあると思われるので、4段階にして振れ具合をはっきりさせる等、アンケートの設問形式を考えた方がいいと思います。

事務局 : 外部のコンサルの専門的な知識を踏まえ、アンケートを作成しましたが、これまでに課題等も生じているため、第2期総合戦略では正していかなければと思っています。

会長 : サンプル数としては十分かと思われます。町民の平均的な評価がどこにあるかも推測できるので、設問事項をしっかりと検討し設定するとよいと思います。

委員 : 一色小学校区地域再生協議会はリードする人たちがいて、そのことが大変重要だと思います。活動が他に広がらないのは、リードする人がいないのか、町が各地区の活動を支援できていないのか、現状をきちんと分析する必要があります。

事務局 : 町の北部にある一色小学校区地域再生協議会というのは、一番人口減少が進んでおり、地域としての危機感が非常に高いところでした。地域の危機感や地区のまとまりが強いため、一色では取り組みが進んだのだと思います。地域間の意識の差や地区のあり方が整理できていない部分もあるため、一色以外のエリアでは活動が進んでいないのだと思います。ただし、一色小学校区地域再生協議会の取り組みの中で、他の地域の方にも参加してもらうなどの、活動の広がりもあるようです。

(3) 第2期二宮町総合戦略の策定方針について

委員 : 国が示した新たな視点にある「民間と協働する」というのは、あくまでも手法であり、他のものとバランスが悪い気がします。民間に任せるもの、町でやるものも必要であるため、フレキシブルな考え方を持った方がいいと思います。

事務局 : 国の考えを考慮しつつ、町の実態に合わせフレキシブルに考えていきたいと思っています。

委員 : 町民意見募集の期間はいつですか。

事務局 : 1月28日～2月27日までです。この素案に対しては議会と総合計画審議会、そして町民意見募集での意見を踏まえて作っていくという考えです。

(4) 第2期二宮町総合戦略（素案）について

○ 基本目標1

委員 : 施策1-2にある地域の通いの場の参加者について、場所は何か所というような目標値はありますか。

事務局 : 二宮町にある地域の通いの場は全地域で実施できていますので、これ以上枠を広げる予定はありません。

委員 : では、そこに来られる人を増えることをアウトカムにするのですか。

事務局 : そうです。

委員 : 施策1-3に消防団員の充足率というのがありますが、これは地元の仕事とも関連性が高いと思います。引っ越した場所に仕事があれば消防団員になる確率高いので、仕事をつくるという部分でリンクします。それから地域活動に参加している人の割合について、都内で退職後にNPO法人などの組織で、手伝いをされている方がいます。将来的に地元でも地域活動に参加される方が多いので、地域活動の枠組みを広く捉えることが重要です。アンケートでも聞き方を工夫する必要があります。

委員 : 施策 1-1 の耐震未確認の地域集会施設という部分で、そもそも地域集会はいくつあり、その中の何か所が未確認なのでしょうか。

事務局 : 現状、地域集会施設は 26 施設あり、その内の耐震が未確認のものは 10 施設です。

委員 : この先、新しい工事をしていく予定はありますか。

事務局 : それに向け、該当している地域との話し合いを始めているところです。

委員 : 基本目標 1 のひとが集い、安心して暮らせる魅力的な地域をつくるという面で、北口商店街では路肩に車が停められているため、ベビーカーや車椅子の方の歩行を妨げている場面を目にします。そういった危険な場所が多々あるので、安心して暮らせる町を考えていきたいです。それから SDG s というのは、町民の方たちはどれくらい認知されているのですか。計画で位置付けるだけでなく、内容を認知させることも大切です。

事務局 : 町としても SDG s は広く知っていただきたいものなので、広報誌等で取り上げていきます。今後も積極的に周知していこうと思います。今回二宮小学校から依頼があり、総合学習の授業で SDG s の授業を行う予定です。今後も、いろいろな場面で町民の方たちにもアプローチをしていきたいと思っています。

副会長 : シティプロモーションを続けてきた結果、子育て世代の方がどれ程転入されたかの数値はありますが、シニア世代の方の転入は多くなかったということですか。

事務局 : 移住フェアなどの会場の状況から、働く世代や子育て世代の方たちの相談が多く、若い世代の転入が結びついていると思います。ただ、会場以外でも様々な媒体によりアプローチしているため、他の世代の方も転入されている可能性があります。若い世代だけではなく、二宮町を気に入って下さる方がすべて対象だと捉えています。

副会長 : 菜の花ウォッチングでシニアの方が多く来られていますし、JR による通勤のしやすさから、都内で仕事をしている方が転入されていると感じます。本当の転入状況を知るうえでも、K P I を 15 歳未満の転入人口と限定することに違和感があります。それから、K P I をイベントの実施数と参加者数と混在しているのはどうかと思います。また、施策 1-2 の地域で支えあう体制の構築については、全ての項目がシニアの方を対象としているので、赤ちゃんから老人までが地域で支えあうというイメージを出す必要があるため、子育てに関連した施策を何か入れてもいいと思います。

事務局 : 基本目標 2 のシティプロモーションで、15 歳未満に限定せず幅広い方の転入を図るために、社会移動数を数値目標で示しています。施策 1-1 の 15 歳未満の転入人口数は東大果樹園の活動の進捗を図るために直結している K P I です。東大跡地の活用については、子供とともに大人も学べる場という形で、子育て世代を中心に多目的に人が集える場づくりに取り組んでいます。その目標が達成し、子育て世代に対する魅力になるのであれば、子育て世代の転入に繋がるため、15 歳未満の転入人口を設定しました。東大果樹園のイベント数は、来場者数を正確にカウントできないため、イベントの実施数としました。子育ての施策に関しては、基本目標 3 にまとめさせていただいています。今後ますます進む高齢化は町の課題であるため、支えあいを高齢者施策に特化しています。子育ての分野を入れるかは、再度検討します。

委員 : 施策 1-3 の K P I で、消防団員の充足率の考え方について教えてください。

事務局 : 5 分団に、それぞれ 15 人ずつ埋まっているかどうかです。ここ数年は埋まっていない

状況です。

委員：施策1-3の住み続けたいと思う一色小学校区内の住民の割合というのは、一色小学校区限定なのでしょうか。

事務局：一色小学校区地域再生協議会の活動が評価はされていますが、地域にどれだけ浸透しているのかが、これまで測定できていませんでした。地域再生事業（一色小学校区地域再生協議会）の進捗状況を図るために一色小学校区に限定しています。

委員：協議会には、一色地区以外の方も参加されていますが、それでも指標を一色に限定されるのですか。

事務局：全町民に対する設問は、基本目標1の数値目標になっているため、ここでは、事業に直接関係する一色地区に限定しています。

○ 基本目標2

委員：「にのみやLifeプロモーション事業」に協力している人数とは、にのみやLife（町事業）だけでしょうか。「結婚後に二宮町に住もう」というサイトを運営している町民の方もプロモーションに力を入れていますが、その方たちもカウントするのでしょうか。

事務局：取り組む方向性は同じであるため、カウントするものだと考えています。

委員：リンクはしていますが、「にのみやLifeプロモーション事業」の中の一つとして、そのサイト運営は位置づけられているのでしょうか。つまり位置づけられていないものを一緒に行っているからカウントしようというのは、違うと思います。

事務局：他の事例では、町内に保育園が一つしかない中、民間で新しい保育園と協力しながら、子育て環境を整えている状況であり、必ずしも位置づけがあるわけではありません。

委員：民間の保育園は国の補助等もあるため、ある意味位置づけがあると思います。ただ、そのサイトに関しては単独でやっているため、同様には扱えないと思います。

事務局：起ち上げに関して町民活動推進補助金により支援しました。

委員：位置づけを明確にしておかないと、しっかりとした数字が図れないのではないかと思います。また、行政の取り組みに協力している方以外にも、取り組みをされている方もいるため、活性化の観点からその方たちもカウントをしてほしいです。訪町観光客数について、イベントで町外から来られた方は観光客ではないので、関係人口としてのカウントにしないと分からないと思います。

会長：施策2-2では、生徒に注目が当たっているのも、先生に対する施策も大事だと思います。先生の負担を減らすような施策が行えれば、例えば教育方法や教材に関する研究時間に充てるのが可能になり、教育の質の向上につながります。また、学生一人あたりにどれくらい支出されているかといった部分で、施策の充実度が図れるかと思っています。高い質の教育が確保できれば転入にもつながると思います。

委員：数値目標にある社会移動数は、単語として分かりにくいので説明が必要です。

副会長：教育関係について、校舎は老朽化が進んでいるものの、教育の質の高さを魅力にしたいです。15歳未満の転入を促すために、教育に力を入れるのは、とてもいいと思います。スクールカウンセラーや支援教育補助員等も町は手厚くしているので、そういう部分も織り込めればもっと魅力的になると思います。完全給食も魅力の一つとして入れて

いただきたいです。

委員：施策2-2の小中一貫教育研究事業について、分離型の小中一貫教育の検討をしていますが、なかなか保護者の方に情報が届いていません。情報の周知方法について、力を入れてほしいです。

○ 基本目標3

会長：施策3-2に保育園の待機児童数とありますが、こうした課題はそもそも保育園の数が関係していると思います。また、保育体制の充実のため、幼児保育に関しては重要となる保育士について、人数の確保や待遇面を町として支援できたらよいと思います。保育士1人に対しての児童数も多くなりすぎないように調整できれば、安定した保育につながると思います。

委員：職場が保育園から離れていて熱を出した子どもを迎えに行けない時に預かってもらい、安心して仕事ができる病児保育があります。病後児保育事業とはどんな内容なのですか。病児保育を他の市町でやっていないので、二宮町で実施できるようになれば、町の特徴になるかと思います。

事務局：病後児保育事業は、町の規模ではニーズが少ないため、大磯町と共同で行っています。病児保育の場合は、医療機関との連携が必要になるので、町の診療所だけでは難しく、町として取り組めていません。必要性の認識は、課題としてとらえています。

委員：民間で実施しているところがあるため、参考にすると良いと思います。突発的な事態でも支援が受けられれば、気持ちの面で安心感が得られるのですごく魅力的です。

○ 基本目標4

委員：施策4-1の地域商工業の活性化に関して、町には民間のコワーキングスペースがあると思います。例えば、コワーキングスペースで仕事をしながら、みかん狩り等を町で体験できるといった環境設定があると、若い人の出入りが増えるのではないかと思います。融資は、企業や団体の運営や活動を支援するだけでなく、大きく前進させることにもつながります。経済活性化に結びつけるためにも、融資に力を入れるといいと思います。

委員：町内オリーブの生産量というのは、今後どれだけ見込んでいるのですか。取り組み自体があまり周りに広まっていない気がします。二宮ブランドとして、オリーブはどこを目指しているのですか。

事務局：取り組みが広がるには、まだまだ時間を要すると思います。生産量の拡大を進めていますが、町内の生産量だけではある程度限界があります。現在、小田原と山北、真鶴、二宮とで協議会を組織し、湘南オリーブとして事業を推進しており、収穫したオリーブを二宮に集めオイル等に加工しています。湘南地域全体で進めているため、二宮ブランドだけが伸びていくわけではありません。そのため、今のところオリーブと二宮ブランドは分けて考えるようにしています。

副会長：施策4-2の有害鳥獣の捕獲数は、KPIとして適切なのでしょうか。また、町の魅力を発信するためにしてきたことが、継続されつつあります。それに加えて、町に特色

あるお店を起業されている状況もあります。そうした取り組みを拡大していけるような事業や支援があると良いと思います。

委員：商工会で、町内にある企業の合同入社式をするのはどうでしょうか。町の企業は小さく、同じ期に入社する人数は少ないですが、町全体を一つの企業として捉え、繋がりを作ってあげれば、町への愛着に繋がると思います。

委員：二宮ブランドの認定商品を増やすのはいいですが、お客さんに買っていただかないと意味がありません。菜の花シーズンであっても、特設販売所が土日しか営業していないので、商品化だけでなく販売についても、商工会と力を入れて町の活性化に繋いでほしいです。

委員：年配の方たちは土日に関係なく、平日の天気がいい日に菜の花と富士山を見に来られる方が多いです。町内の商店ではお客さんが増えているようなことは伺っています。

委員：土日の混雑を避け、平日の空いている時に来られる高齢者もいます。土日だけでなく、平日の販売もリンクさせられれば多少は違うと思います。

副会長：ブランドの新規認定商品数でKPIを図ってしまうのは、どうなのかと思います。例えば、起業店舗が増えつつあるので、そのようなものが見えるような事業の内容とKPIの設定がされると良いと思います。

会長：施策4-2の遊休・荒廃農地対策事業がありますが、直接KPIに対応するものが見当たらないと思います。例えば、遊休・荒廃農地の面積を減らす、遊休農地の転用数等が把握できたらいいと思います。農業の生産性を高めるのであれば、単位面積の収穫量や、1農家当たりの収穫量・販売等の数値が、参考になるのではないかと思います。

委員：施策1-2にある認知症サポーター養成講座は、若い世代に受けてもらいたいです。ここは高齢者が対象ですが、サポーター自身は小学生から若い世代の方にやっていただけるので、アウトカムまで発展できる可能性があると思います。

委員：総合戦略アンケート調査は、町民意見募集と関係があるのですか。

事務局：アンケート調査は、事業推進に対する町民の評価を把握するために、毎年無作為抽出の1,000人の方を対象に実施しています。今回の町民意見募集については、第2期総合戦略の素案について行っています。

委員：施策1-2では、高齢化社会に注目がされていますが、パラスポーツ団体のような障がいに対する事業にも力を入れてほしいと思います。

(5) その他

事務局：第2回総合計画審議会は、2月21日(金)午後1時30分から開催です。今回の審議内容について、議事録を作成しますので、後日確認作業にもご協力お願いします。